

第 2 期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略

重点プロジェクト評価・検証シート

(令和 4 年度実績)

目 次

〈 K P I 達成状況：達成 12 項目 概ね達成 2 項目 未達成 10 項目 〉

1. まちの未来創造

数値目標「合計特殊出生率」	1
数値目標「交流人口」	1
N o . 1 住民による地区別計画推進の取り組み件数	2
N o . 2 市内路線バスの日利用者数	3
N o . 3 まちなか交流プラザ来館者数	4
N o . 4 宿泊者数	5
N o . 5 ナビデスク相談件数	6
N o . 6 地域おこし協力隊の定住者数	7
N o . 7 広域観光造成ツアー商品数	8
N o . 8 観光入込客数	9
N o . 9 インターンシップ受け入れ者数	10
N o . 10 羊と雲の丘来場者数	11
N o . 11 土別サフォークラム取り扱い飲食店数	12
N o . 12 新たな技術開発の試験研究件数	13
N o . 13 企業等との連携件数	14

2. 農業未来都市創造

数値目標「農家戸数」	1
数値目標「成雌めん羊飼養頭数」	1
N o . 14 排水性向上対策（暗渠施工延長）	15
N o . 15 土づくり対策（堆肥・緑肥施用面積）	15
N o . 16 新規就農者確保数	16
N o . 17 G P S ガイダンス活用面積	16
N o . 18 水管理システム台数（給水栓自動制御）	17
N o . 19 飼養技術研修会に参加する生産者数	18
N o . 20 新規めん羊飼養者数・新規飼養戸数	19

3. 合宿の聖地創造

数値目標「合宿者数」	1
数値目標「招致チーム数」	1
N o . 21 リピーターチーム数	20
N o . 22 チャレンジデーの達成率	21
N o . 23 スポーツイベントの参加者数	22
N o . 24 オリンピックデーラン参加者数	23

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略重点プロジェクト数値目標(令和4年度実績)

■まちの未来創造

担当課	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 R8年度
企画課	合計特殊出生率	1.36	-	-	-	1.5
商工労働観光課	交流人口	334,312人	290,000人	616,078人	586,009人	460,000人/年

■農業未来都市創造

担当課	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 R8年度
農業振興課	農家戸数	542戸	553戸	537戸	492戸	400戸
畜産林務課	成雌めん羊飼養頭数	614頭	655頭	649頭	641頭	1,000頭

■合宿の聖地創造

担当課	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 R8年度
スポーツ推進課	合宿者数	延24,223人	延11,462人	延14,314人	延16,271人	延24,900人
スポーツ推進課	招致チーム数	延487チーム	延217チーム	延270チーム	延380チーム	延500チーム

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.1	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実					上段:目標値 下段:実績	
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
住民による地区別計画推進の取り組み件数 基準値(2018年度):3件/年 目標値(2026年度):延24件		3	3	3	3	4	4	4
		4	1	4				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		「まちの地域力」推進事業						
【事業概要】 士別市「まちの地域力」推進事業支援要綱に基づき、まちづくり総合計画地区別計画等に位置づけた取り組みや協働による公益的なまちづくり活動の取り組みを支援し、地域力の向上を図る。								
【実施状況】 ・一次募集 令和4年5月審査会 申請1件、採択1件 ・二次募集 令和4年7月審査会 申請2件、採択2件 ・三次募集 申請0件 ・随時募集 令和4年11月審査会 申請1件、採択1件								
【主な取り組み】 ・ふまねっとサロン推進事業 5年目 ・「プラットフォーム」整備事業 1年目 ・南町五自連交流会「魅力再発見！」南町ウォーキング」 1年目 ・上士別小学校・中学校前バス待合所整備事業 1年目								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、必要な感染対策を講じたなかで四団体により事業が実施された。R3年度に新型コロナウイルスの影響により、延期となっていた事業が実施されたほか、市内各種イベントも再開に向けて活発な動きが見られたことから、取り組み件数については達成となった。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
2022年度から、まちづくり総合計画展望計画へ着手、取り組みとなることから、地域力の向上を目的として公益的な事業や協働のまちづくり活動を継続的に支援する必要がある。 また、行政として、団体が取り組む先進事例やモデル性の高い取り組みなど、他地域に効果が広く波及する事業について効果的に広報周知を図るとともに、自治会や団体との連携を密にするなかで地域への広がりを高めることとする。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.2	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実					上段:目標値 下段:実績	
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
市内路線バスの日利用者数		1,180	1,180	1,185	1,190	1,195	1,200	1,200
基準値(2018年度):1,180人/日								
目標値(2026年度):1,200人/日		550	581	568				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		新たな公共交通MaaS推進事業・次世代モビリティビジョン推進事業						
【事業概要】								
<p>士別市地域公共交通活性化協議会の研究組織として有識者、連携企業等で構成する「士別市次世代モビリティ推進会議」において、「士別市次世代モビリティビジョン」に掲げる感染症の影響などを踏まえた、市民ニーズの変化に対応する公共交通の確保と持続可能な公共交通維持のため、関係者間の連携や感染症への対応、デジタル化の推進、利用環境の改善等の取り組みを支援する。</p>								
【実施状況】								
<p>バスとタクシーの双方で利用できる「バス・タクシー共通利用チケット」を販売し、異なる交通手段の連携による公共交通の利用促進を図った。</p> <p>バス事業者では、冬期間の運行ニーズから、市内南地区を運行する市内循環線「わくわく買い物線」の運行を11月から4月までの6か月間(前年度は12月から3月までの4か月間)に延長したほか、多寄地区の路線バス最適化のため、「中多寄線」の減便及び「中多寄スクール線」の一部通年平日運行について協議し、令和5年4月から実施することとなった。</p> <p>タクシー事業者では、共働き世帯の増加による習い事の送迎にかかる負担軽減効果と住民ニーズ把握のため、利用者負担を一律100円に設定し、タクシーによる送迎事業として、「習い事応援タクシー」の実証実験を実施した。</p>								
【主な取り組み】								
<ul style="list-style-type: none"> ・「バス・タクシー共通利用チケット」の販売(10月) ・「わくわく買い物線」の運行(11月～4月に延長) ・多寄地区の路線バス最適化協議(令和5年4月～実施) ・「習い事応援タクシー」の実証実験(11月～1月) 								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>全国的にバス利用者が大幅に減少する一方で、住民ニーズの多様化による利便性の高い安定したサービスの提供が求められている。事業者の経営維持と効率的な地域の足を確保していくためには、利用者が少ない路線の減便や見直し、新たな利用促進に向けたさらなる取り組みが必要となっている。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>コロナ禍により減少した公共交通利用者の回復は見込みが難しく、人口の自然減が続く本市においては、既存の地域交通網を現状のまま維持することが極めて困難な状況にあることから、士別市次世代モビリティビジョンに掲げる「協働と連携によるシームレスなモビリティ」の具現化にむけて、運行面でのバスとタクシーの役割分担や共通利用化など、今まで行ってきたさまざまな実証実験や新しい視点を組み合わせ「将来における士別市の交通体系」の構築を進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.3	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
まちなか交流プラザ来館者数		-	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 720,000人		-	387,099	294,586				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
<p>【事業概要】 令和3年5月1日にまちなか交流プラザがオープンしたことにより、これからの観光情報の発信や観光拠点としての役割など、必要な取り組みについて、まちづくり士別株式会社など関係機関と協議を進め、中心市街地の賑わい創出を図る。</p> <p>【実施状況】 まちなか交流プラザは、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」として、北海道で129番目の登録認定を受け、行政とまちづくり会社の情報共有及び意見交換などを円滑に行い、中心市街地の活性化の取り組みを行った。</p> <p>【主な取り組み】 サフォークスタンプなど既存の取り組みとの連携 道の駅にて、春・夏・秋にイベントを開催。</p>								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>道の駅オープン2年目となり、順調に市内外から多くの方が来館され、目標値を上回る状況となった。 要因として新型コロナウイルスにより落ち込んだ観光需要の回復や、「道の駅」は24時間利用できる駐車場やトイレなどの休息機能があり、観光客や旅行者以外の利用者も多いことや、「道の駅」スタンプラリーなど、来館を目的とした取り組みなどの効果も高いと考える。また「マイクロツーリズム」の浸透により、自家用車を利用した旅行形態の増加や、地元の魅力の再発見など、近場で楽しむ方が増えてきている事も理由と考える。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>令和5年度以降もまちなか交流プラザの「道の駅」としての集客力に期待するとともに、羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング事業における取り組みの実施のほか、観光拠点、窓口の設置(広域含む)、情報発信の強化(一元化)など、まちづくり士別株式会社と協力し、まちなか交流プラザ来館者の集客に努める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.4	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
宿泊者数		81,000	81,000	82,000	82,000	82,000	83,000	83,000
基準値(2018年度):80,554人/年 目標値(2026年度):延 574,000人		56,000	59,450	74,840				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
<p>【事業概要】 観光客及び合宿者が本市に訪れるような仕組みの検討や、訪れた方が再度訪れる(リピーター)仕組み作りを行うとともに、客室の空き状況などを一元化できる仕組みづくりを進める。</p> <p>【実施状況】 令和4年度は、新型コロナウイルスの影響はあったものの、例年実施している実業団の合宿のほか社会人ウエイトリフティングの大会などにより、本市を訪れる観光客及び合宿者などが昨年よりも増加した。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化(一元化)</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>宿泊者数は目標値を概ね達成する事が出来た。要因としては、新型コロナウイルスにより落ち込んだ観光需要の回復やキャンプ場利用者増及び合宿者の回復が主な要因と考える。 「道の駅」ができたことにより観光入込客数は維持し、宿泊者数も昨年度より増加していることから、観光客及び合宿者の本市へ訪れるような仕組み作りをを継続して進める。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>宿泊者の受入体制の整備、インターネット利用者に向けた戦略的な観光プロモーションを進める。また、PR動画や誌面、WEB広告など多様な情報発信ツールを効果的に活用する。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.5	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ナビデスク相談件数		-	20	25	30	35	40	50
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 200件		-	67	63				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		移住定住促進事業						
【事業概要】 移住希望者のニーズに対応した移住定住に関する情報発信や生活全般に関する相談・サポート機能を備える総合窓口「移住ナビデスク」の運営により、移住を検討している方の不安解消や移住支援を進めるとともに、移住体験ツアーをはじめとするお試し移住の取り組みにより、士別市の認知度向上と、若者を中心とする将来的な移住・定住人口の増に繋げる。								
【実施状況】 令和4年4月1日、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」を運営しているまちづくり士別株式会社と士別市移住ナビデスク業務の委託契約を締結し、引き続き、情報発信の強化や休日及び祝日における相談窓口対応のほか、市役所庁舎においても引き続き相談対応した。 都市圏の若者を中心に、移住コーディネーターや道内移住関連事業者との連携により、8月、9月、2月に移住体験ツアーを実施。士別市の魅力を体験してもらいつつ、地域や地元民との交流を通し、農業や観光だけではない地域が持つ魅力について、参加者のみならず、各自のSNS発信も相まって、広くアピールできた。								
【主な取り組み】 ・士別市移住ナビデスクの運営(委託業務) ・休日、祝日の窓口開設 ・移住者向けリーフレットの作成 ・SNSによる情報発信 ・雑誌等への広告掲載								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
全国的に地方移住者が増加しているものの、依然として本市の人口減少・少子高齢は進行しており、その対策は喫緊の課題である。 オープン以降、道の駅が移住や観光に関する情報発信機能の拠点であることが認知され、相談件数も昨年度並となったほか、今年度は定住に繋がったケースはないものの、移住体験ツアーを機に、短期移住に繋がったケースがあった。今後も更なるナビデスクの機能強化のほか、移住体験ツアーをはじめとする移住体験の取り組みについても、拡充していく必要があると考える。								
【参考】 令和4年度ナビデスク相談件数:63件(うち移住に繋がったケースなし) 令和3年度ナビデスク相談件数:67件 令和2年度ナビデスク相談件数:75件								
■ 改善に向けた主な取り組み								
移住先を検討している全国の方へ、一層士別市の魅力や住みやすさをアピールしていくために、観光や子育て、創業支援の取り組みなど、より効果的で包括的な移住に関する情報発信の手法について検討を進める。 移住や空き家の相談に訪れる方は、中長期的な展望で移住先を検討していると考えられるため、市内宿泊施設等との連携による短期移住の受け入れ体制の整備について検討を進めるほか、地域おこし協力隊のネットワークを中心に、市内外の若者等の交流が進むよう、今年度に引き続き移住体験ツアーを実施するほか、手軽に短期移住しながら地域で就業もできる「ふるさとワーキングホリデー」の実施について、検討を進める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.6	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
地域おこし協力隊の定住者数		1	1	1	1	1	1	1
基準値(2018年度):1人/年								
目標値(2026年度):延7人		2	1	3				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		地域おこし協力隊活動事業						
<p>【事業概要】 地域力の維持や強化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用し、地域外から新たな担い手や地域活性化策などを助言する意欲ある都市住民を受け入れ、定住定着にむけた取り組みを進める。</p> <p>【実施状況】 地域おこし協力隊員は、令和4年度において3名が任期満了となり、うち2名は定住となった。任期途中で5名が退任したが1名が定住となった。新たに6名の地域おこし協力隊員を任用し、年度末時点で9名の隊員が活動中。 各隊員の活動については、毎月活動レポートの提出を求め、実施内容や進捗状況を確認している。また、退任後の定住をサポートするため、定期面談を実施し、活動中の不安や疑問の解消に努めている。</p> <p>(地域おこし協力隊員数内訳:R5.3.31時点) 農業支援員:2名 羊飼養: 5名 観光振興: 1名 地域振興: 1名</p> <p>【主な取り組み】 ・協力隊員へのサポート ・市ホームページ等による募集活動 ・起業・就業にむけた定期面談の実施 ・起業支援金の活用</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>任期満了となった3名のうち、2名は隊員として従事していた事業所にそれぞれ就業。1名は地元に戻った。そのほか、途中退任とはなったが、1名が隊員として従事していた事業所に就業。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後も複数の隊員が任期満了による退任を迎えるため、サポート体制の充実を図るとともに、隊員へのフォローアップに努める。</p> <p>起業をめざしている場合は、協力隊員として活動できる3年間で全ての知識や技術を習得することは難しく、退任後も起業や定住に向けた支援が必要である。隊員本人及び各担当課と関係団体が連携して、本市起業支援金の申請サポートをはじめ、起業に必要な手続きや土地・店舗の取得等のサポートも行う。</p> <p>隊員相互の交流を図ることや地域とのつながりを強め、地域への愛着をもっていただくことで、将来の確実な定住に繋げることを目的に、地域おこし協力隊ネットワークの強化と市民を巻き込んだ隊員との交流イベント等の実施を検討する。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.7	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
広域観光造成ツアー商品数 基準値(2018年度):4商品/年 目標値(2026年度):6商品/年		4	4	5	5	5	6	6
		0	0	2				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 士別地域(士別市、和寒町、剣淵町、幌加内町)の観光資源を生かした広域観光ルートを形成し、多くの観光客が再度、この地域に来たいと思える新たな観光コンテンツの造成を広域で進める。</p> <p>【実施状況】 旅行商品造成を狙いとした招へい事業を旅行会社と連携し行った。 コロナ禍の中ではあったものの、北海道スタイルの実施など、感染拡大防止対策を十分に配慮し、市及び広域観光の取り組みを実施した。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化 WEBによる観光商談の実施。</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>旅行商品造成を狙いとした招へい事業としてWEB商談やツアーを実施した。また1市3町の観光スポットやグルメを巡る「スタンプラリー」を実施し、本地域への集客に努め、地域の活性化と観光振興を図った。 今後地域への誘客促進をはかることを前提に事業を進めるとともに、地域に訪れた人がリピーターになってくれるような観光コンテンツの構築など、地域が一体となった取り組みを進める必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>本市の観光コンテンツについては、魅力的なものが多いが、情報発信について弱い部分がある。今後は観光情報発信に力を入れ、市及び地域を知っていただく効果的な取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.8	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
観光入込客数		336,000	456,000	457,500	457,500	457,500	460,000	460,000
基準値(2018年度): 335,400人/年								
目標値(2026年度): 延 3,084,500人		290,000	616,078	586,009				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 既存の観光コンテンツのほか、スポーツや農業体験等を組み合わせた新たな観光メニューや地元食材を活用した新メニューなど広域な取り組みにより進める。</p> <p>【実施状況】 各観光事業者によるツアーなどの国内外からの観光客は減少したが、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」に市内外から多くの方が来館され、目標値を上回る状況となった。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年度は道の駅のオープンやアウトドアブームによるキャンプ場利用者の増により入込数の目標値を達成したが、今年度は、道の駅の入込客数が減少し宿泊を伴う入込数は増加傾向にあるため、「マイクロツーリズム」のような自家用車による近隣地域への旅行ではなく、公共交通等を利用した旅行が増えてきている傾向にあることから、状況に合わせた対策を取っていく必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の観光誘致の対策として広域連携による着地型観光の推進は継続しつつ、国内の旅行客へ向けた地域への誘引策の検討を進めていく。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.9	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	広域連携による着地型観光の深化						上段:目標値 下段:実績
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
インターンシップ受け入れ者数		3	4	4	4	4	4	4
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 27人		0	0	0				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 外国人観光客の増加に伴う受け入れ側のインバウンド対応能力の向上に繋げ、交流人口の拡大を図る。 また、受け入れに必要なコミュニケーション能力・語学力の向上をめざす。 インターン生による各職場での体験をSNS等で情報発信するなど、地域における観光の魅力を広める取り組みを進める。</p> <p>【実施状況】 本来であれば、国立高雄科技大学の日本語学科に通う台湾大学生を対象にインターン生を地域に迎え入れ、情報発信の拡大や相互交流の活発化を期待した取り組みを進める予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、インターンシップによる受け入れを中止した。</p> <p>【主な取り組み】 インバウンド受け入れ環境整備</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、インターンシップによる受け入れを中止としたため、目標値には達成しなかった。今後はこれまで進めてきた台湾との交流の継続協議や、新たな地域との取り組み検討などが課題となるほか、地域がインバウンドを受け入れていく体制整備、関係機関との協議の継続、より効果的な情報発信が必要である。また、ホストタウンの取り組みなど、今後の交流の仕方を検討する必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の取り組みとして、台湾国籍の地域おこし協力隊による台湾に対する地域の情報発信に力を入れるとともに、受け入れる地域においても、台湾への理解力の向上や、ホストタウンによる様々な交流のつながりを生かし、幅広い取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.10	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
羊と雲の丘来場者数		51,000	51,000	51,500	51,500	51,500	52,000	52,000
基準値(2018年度):50,547人/年 目標値(2026年度):延 360,500人		31,000	27,370	30,041				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 本市の特産品や地元食材を活用したメニューの提供など、道内外の物産展等で積極的なプロモーション活動を実施する。 また、観光パンフレットやホームページ、SNS等の媒体を活用した効果的な周知を進める。</p> <p>【実施状況】 道内外のイベント等が感染対策を行いながらの実施となり、本市においても各イベントで羊のまち士別「サフォークラム」のPRや道の駅と連動した販売を行った。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、集客は戻らない状況となった。GWイベントやめん羊工芸館におけるイベント実施を行い、羊と雲の丘への来場者増加を目指した取り組みも行ったが、目標達成には至らなかった。 今後は、「道の駅」に来館する多くの方を「羊と雲の丘」にも来場してもらえるような、連携した取り組みの構築が必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の観光誘致の対策として、当地域に観光客を呼び込むため道北地域一体となった取り組みを進めるとともに、継続した羊のまち士別「サフォークラム」の周知を含めた観光情報発信にも力を入れるほか、道の駅に来館する観光客を羊と雲の丘へ来場させる連動した取り組みを行う。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.11	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
士別サフォークラム取り扱い飲食店数		4	4	5	5	5	6	6
基準値(2018年度):4店舗/年								
目標値(2026年度):6店舗/年		5	6	6				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 市内飲食店などでサフォークラム等の利用拡大を図り、幅広いプロモーションを通じて地域ブランド羊肉「士別サフォークラム」を発信し、本市への集客を図る取り組みを進める。</p> <p>【実施状況】 道の駅がオープンしたことにより道の駅での「士別サフォークラム」のPRを実施できた。食してもらい、知ってもらい機会が増え、地域への誘客に努めた。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>士別サフォークラムを取り扱う店舗として「まちなか交流プラザ」が増えたことで、これまで以上に多くの人たちに「士別サフォークラム」を食してもらい機会が増えた。</p> <p>今後においてもウィズコロナを前提に「士別サフォークラム」の消費拡大、PRの取り組みが課題である。また、本市の観光資源情報を増加するインターネット利用者に対して効果的に行うとともに、他分野と連携した新たな体験型・滞在型観光の創出が必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>ウィズコロナを前提に本市が安全・安心なまちであることの周知を含めた「士別サフォークラム」の情報発信に力を入れていく。</p> <p>本市及び地域を訪れる観光客に「士別サフォークラム」の良さを知ってもらい、更なるブランド力の向上、提供店舗の増加に繋がる取り組みを継続して行う。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.12	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	Society5.0の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新たな技術開発の試験研究件数		-	1	-	1	-	1	-
基準値(2018年度):延 2件								
目標値(2026年度):延 3件		-	1	1				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業						
<p>【事業概要】</p> <p>本市に見合ったSociety5.0の構築に向けた調査研究を進めるとともに、MaaSの導入や自動運転の実証実験を中心に、本市が有する自然環境を生かした新たな技術開発の試験研究誘致に努める。</p> <p>【実施状況】</p> <p>見識のある企業との意見交換や「北海道自動車安全技術検討会議(事務局:北海道)」の参画等によって、WEBによるリモート会議を中心に、MaaSの導入や自動運転の実証実験に関する調査・研究を進めた。また、昨年度からの継続した誘致の取り組みにより、今年度冬期に市内において、国内企業による自動運転関連技術の試験が実施された。</p> <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自動運転試験」の誘致に向けた情報収集及び情報発信、北海道との連携、見識のある企業との意見交換 ・自動運転関連技術試験の誘致 1件(※参考値) 								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年度からの継続した誘致の取り組みにより、秋期に自動運転試験が実施され、目標は達成となった。しかしながら、本市の積雪寒冷の特色を活かした冬期の自動運転試験については、相談や本市からの資料提供を行ったものの、誘致に至っておらず、試験用路線等のラインアップやインフラ環境(電波、電源)等に課題がある。また、Society5.0については、新型コロナウイルス感染症の影響により、研究のための出張等を自粛していたことから、調査研究はあまり進展していない。なお、市内循環バスで利用できるバスロケーションシステムを引き続き運用し、Maasの概念を取り入れた市民の交通の利便性向上を図った。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の取り組み強化に向け、HAIA(北海道自動車安全技術検討会議)との一層の連携強化のほか、多様化するニーズに合わせた自動運転用の道路・フィールドの設置に向けた検討を進める。また、R5については、コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いも見直されたことから、長年自粛している都市圏での誘致プロモーション等の活動を本格化させたい。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.13	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	遊休財産の活用も含めた企業誘致等によるまちの活性化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
企業等との連携件数 基準値(2018年度):1件/年 目標値(2026年度):延 4件		1	-	1	-	1	-	1
		0	2	2				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業、立地企業連携事業						
<p>【事業概要】 特定遊休財産を中心に、利活用の見込みがない公共施設を活用した企業誘致を進めるほか、駅南工業団地の分譲に向け、積極的な周知等に努める。また、企業連携としては、立地企業との市民交流に引き続き取り組む。</p> <p>【実施状況】 引き続き、企業誘致に向けた北海道との連携や見識のある企業との意見交換を実施したほか、駅南工業団地の分譲に関する北海道への情報提供や立地に向けた企業との交渉にあたったところである。また、特定遊休財産の活用に向けた事業者公募を実施した。(審査により利活用に至ったケースはなし) また、1月には(株)ブリヂストンと包括連携協定を締結したところであり、市民生活の安心・安全に向けて、今後も一層、連携及び取り組みを強化していく。</p> <p>【主な取り組み】 ・北海道との連携、見識のある企業との意見交換、立地に向けた手続き進行(パネ工場誘致1件) ・包括連携協定の締結 1件(ブリヂストン) ・トヨタ健康ウォーキングの開催(10月) ・ダイハツ健康安全点講座の開催(6・9月)</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>企業等との連携として例年開催しているトヨタ自動車(株)士別試験場でのウォーキング開催、ダイハツ工業(北海道ダイハツ販売)との連携による健康安全運転講座の開催、パネ工場の誘致が実現した。一方、特定遊休財産については、法令による規制や活用に向けてコスト面での課題が引き続きの課題となっており、今年度も利活用に至ったケースはない。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>駅南工業団地については、問い合わせや資料送付をおこなったものの、分譲には至っていないため、これまでどおり工業団地単独の分譲を継続するのではなく、士別市と縁のある市外事業所に働きかけなどを行う。これまでの自動車等試験研究のまちの伝統や包括連携協定の締結による企業との関係強化は進めつつ、移住・定住促進の視点も併せもった新たな企業誘致の取り組みを、引き続き進める。 (お試し移住事業とワーケーション誘致の連携) (起業フォローアップ・経営支援事業と移住(UIJターン)推進と地域おこし協力隊サポートの連携) ⇒定住者獲得と起業(企業誘致)につなげる</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.14	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
排水性向上対策(暗渠施工延長) 基準値(2018年度):62,519m/年 目標値(2026年度):延385,000m		55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
		64,740	43,561	35,236				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金						
<p>【事業概要】 排水性の向上により、適期作業を可能とし、農作物品質の向上・生産量の増加及び営農機械の走行性の改善による農作業の効率化を図ることで、農業所得の安定化等により持続可能な生産体制の確立を図る。</p> <p>【実施状況】 小規模な暗渠排水を実施し、排水性の向上を図った。</p> <p>【主な取り組み】 暗渠施工延長 35,236m</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
申込み件数が減少し目標が未達成となった。物価高騰による経営経費の増加により暗渠排水対策を抑制したことが減少の要因と考えられる。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
中山間農業・農村活性化事業の周知により、排水性向上対策の推進に努める。								

No.15	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
土づくり対策(堆肥・緑肥施用面積) 基準値(2018年度):2,294ha/年 目標値(2026年度):延16,000ha		2,200	2,200	2,200	2,300	2,300	2,400	2,400
		2,379	2,327	2,098				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金・産地交付金・環境保全型農業直接支払交付金						
<p>【事業概要】 農業の原点である土づくりの推進を図る。</p> <p>【実施状況】 堆肥施用や適正な輪作体系の確立を図るため緑肥作物を導入し、農作物の収量・品質向上を図った。</p> <p>【主な取り組み】 堆肥施用面積 1,292.2ha 緑肥作付面積 806.0ha</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況(見込)		<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
農作物の収量・品質向上をめざすため、堆肥施用や緑肥作物を導入し、持続可能な生産体制の確立を図る。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
肥料価格の高騰による化学肥料の低減に向け、堆肥施用や緑肥作物の利用増加が今後見込まれる。引き続き土づくりの推進に努める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.16	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担当部署	経済部農業振興課						
	基本施策	担い手の確保・多様で安定的な経営体の育成 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規就農者確保数		5	5	5	5	5	5	5
基準値(2018年度):8人/年 目標値(2026年度):延 35人		6	8	7				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		農業農村担い手支援事業						
【事業概要】 就農研修者・新規就農者・新規参入者など地域の担い手の確保・育成を図る。								
【実施状況】 就農相談会への参加、北海道担い手育成センター(北海道農業公社)や農業大学への訪問 市ホームページへ掲載等によるPR活動を実施 担い手確保等に向けた担い手支援協議会及び地区別意見交換会の実施等								
【主な取り組み】 ・就農相談会への参加 3回 ・農業大学への訪問 1回 ・農業公社訪問 1回 ・地区別意見交換会の実施 7地区 ・士別市担い手支援協議会の開催 6回 ・新規就農者等向け冬期学習会の開催 8回 ・就農研修者等との定期面談(毎月)								
【就農研修者内訳】 ・地域おこし協力隊員(農業支援員) 4人 ・士別市就農研修者 3人								
【新規就農者内訳】 ・新規参入者 4人 ・Uターン(学卒者含む) 2人 ・雇用就農 1人								
【経営体の育成】 ・6次産業化ネットワーク会議の開催 参加者 9名 内容 ・インボイス制度について (講師:名寄税務署職員)								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
新規就農者数の目標は達成された。各地区や関係機関から担い手確保に向けた様々な意見が出ていることから、今後も協議が必要。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
士別市担い手支援協議会等を開催し、担い手の確保について協議していく。								

No.17	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担当部署	経済部農業振興課						
	基本施策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
GPSガイダンス活用面積		5,450	5,590	5,730	5,870	6,010	6,150	6,290
基準値(2018年度):5,174ha/年 目標値(2026年度):延 41,090ha		5,482	5,809	6,469				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		経営所得安定対策等産地交付金						
【事業概要】 GPSガイダンス活用により、農作業の省力化、低コスト化を図る。								
【実施状況】 GPSガイダンスの活用促進のため、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューとして設定した。								
【主な取り組み】 GPSガイダンス活用面積 6,469ha								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
今後も農作業の省力化、低コスト化が見込まれるGPSガイダンスの活用増加が見込まれる。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
引き続き、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューとして設定し、GPSガイダンス活用の推進に努める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.18	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
水管理システム台数(給水栓自動制御システム)		20	30	40	40	50	50	50
基準値(2018年度):- 目標値(2026年度):延 280台		56	2	6				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		多面的機能支払事業						
<p>多面的機能支払交付金を活用し、水管理システムが導入により労働時間等の削減が図られている。 給水栓のゴミ詰まりの問題やシステムの値上げにより、その費用対効果から導入を検討している状況。</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>多面的機能支払交付金を活用し、水管理システムが導入され、労働時間等の削減が図られた。 水管理システム(給水栓自動制御システム)の延台数は達成しているが、システムの値上げや当初想定していなかった自動給水栓のゴミ詰まり多発などの問題により、導入を控える農業者が増えている。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>用水路への除塵機の設置により給水栓へのゴミ詰まりの対応が図られていることや労働時間の削減などが見込まれることから、システム導入の推進に努める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.19	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
飼養技術研修会に参加する生産者数 基準値(2018年度):4人/年 目標値(2026年度):延 90人		10	10	10	15	15	15	15
		28	24	36				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
<p>【事業概要】 めん羊飼育に関する全国・全道の機関・団体や生産者などとの連携、また、農業応援アドバイザーによる飼養技術向上などの助言や労働力の確保などにより生産基盤の充実を図る。</p> <p>【実施状況】 生産者及び法人従業員等が統一的な手法・見解による飼養技術取得を図るため、農業応援アドバイザーによる飼養現場視察・指導を実施した。また、農業応援アドバイザーによる「めん羊の栄養管理に関する研修会」を開催し、飼養技術の向上を図った。</p> <p>【主な取り組み】 ・羊飼養現場視察・指導:1回、6施設15名 ・めん羊栄養管理に関する研修会:21名</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>令和4年度は、農業応援アドバイザーの飼養現場視察・指導に加え、コロナ禍の中、生産者等の理解のもと「めん羊栄養管理に関する研修会」を開催することができた。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、市外での研修会(北海道めん羊協議会主催等)も再開が見込まれることから、生産者等が各種研修会へ参加することにより飼養技術向上に繋げていく。 また、市外生産者や関係機関と連携し「サフォーク種共進会」を開催するなど、市外生産者との情報交換の場を設ける。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.20	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規めん羊飼養者数(上段)		1	1	1	1	2	2	2
新規飼養戸数(下段)		0	0	0	0	0	0	1
基準値(2018年度):-		1	1	1				
目標値(2026年度):延 10人・1戸		0	0	0				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
<p>【事業概要】 サフォーク羊の新規生産者の確保及び既存生産者の規模拡大の取り組みに対して支援する。「地域おこし協力隊制度」の活用や各種大学・専門学校生の受け入れなどを推進し、人材の確保・育成を図る。</p> <p>【実施状況】 令和4年度、地域おこし協力隊2名を任用した。 生産者の協力のもと、羊飼育実習者6名を受け入れた。</p> <p>【主な取り組み】 地域おこし協力隊の任用 羊飼養実習者の受け入れ</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>羊飼養実習者のうち1名が、市内法人に新規めん羊飼養者として就労した。 また、独立就農に向けた課題として、就農場所や国の資金制度活用に向けた課題があることから、営農類型の早期確立が求められる。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>人材の確保育成について、道内外から若者を中心に多くの方が「士別市での羊飼育」を希望し、実際に地域おこし協力体制度等を活用した研修を通して担い手の確保に繋がっている状況がある。今後も士別めん羊生産組合と協力しながら担い手確保・育成に向けた取組を推進する。 併せて生産組合・関係機関等との協議を実施し、営農類型の早期確立を目指すほか、必要に応じて独立希望者の研修内容見直し等も行いながら飼養戸数の増加に向けた取組を実施する。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.21	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	合宿受け入れ態勢と招致活動の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
リピーターチーム数		153	155	157	159	160	161	162
基準値(2018年度):149チーム/年								
目標値(2026年度):162チーム/年		87	95	106				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツ合宿推進事業						
【事業概要】								
<p>トレーニング施設や宿泊施設などの環境整備をはじめ、地元食材を活用した食事の提供、さらには、合宿チームのニーズに応えた送迎体制を確保するなど、合宿受け入れ態勢の充実を図る。また、合宿の里士別推進協議会への補助による活動支援を行い、官民一体となった合宿招致活動を進める。</p>								
【実施状況】								
<p>男女実業団の駅伝大会などを訪問し招致活動を実施した。 士別と旭川空港や千歳空港間の送迎を行った。 施設の不良箇所を適宜修繕を行うなど、適切な管理によるトレーニング環境を提供した。 コロナ禍を踏まえ合宿歓迎会は自粛したが、地元産の食材などを差し入れし歓迎の意を伝えた。 市民と合宿者の健康と安心を確保するため、令和2年度から合宿チームと取り交わしている合意書については、感染管理認定看護師の指導のもと取り組みを継続した。</p>								
【主な取り組み】								
<ul style="list-style-type: none"> ・クイーンズ駅伝(宮城県)、プリンセス駅伝(福岡県)、ニューイヤー駅伝(群馬県)などへの招致活動 ・旭川空港や千歳空港間の送迎 ・陸上競技場トラック走路一部修繕 ・合宿チームへの差し入れ (地元産)トマトジュース、牛肉、ジンギスカンなど 								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>合宿者数とリピーター数は、前年に比べ増加したものの、目標値は達成することができなかった。 新型コロナウイルス感染症の影響により、合宿全体が減ったことでリピーターチームも比例して下がっている。 昨年は、3年ぶりに士別ハーフマラソン大会を開催したこともあり、大会に合わせた合宿も戻り、回復傾向にはあるが、コロナ禍を契機に士別合宿から離れたチームもあることから、練習環境や受入体制を整えとともに、積極的な招致をしていかななくてはならない。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>新型コロナウイルス感染症による制限がなくなり、実業団や大学のほか、中学校や高校の部活動も活発化することが想定される。 トレーニング環境の充実に努めるほか、5～6月は合宿の閑散期となっているが、合宿に適した気候であることを紹介する取り組みを継続し、新たな時期への合宿の招致を図る。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.22	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	生涯スポーツの推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
チャレンジデーの達成率		45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0
基準値(2018年度):27.1%								
目標値(2026年度):51.0%		16.1	24.2	30.2				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		市民スポーツ振興事業						
【事業概要】 笹川スポーツ財団が主催する住民参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」への参加をはじめ、総合型スポーツクラブにおける各種事業などを通じ、広義のスポーツ参画拡大に努め、市民のスポーツ推進と運動習慣の定着を図る。								
【実施状況】 「チャレンジデー2022」は、令和4年5月25日に自治体対戦形式でチャレンジデー2022が実施され、長野県東御市と対戦したが、昨年に続き勝利することはできなかった。 ○士別市 参加回数:5回目 人口:17,676人 参加者:5,336人 参加率:30.2% ○東御市 参加回数:9回目 人口:29,677人 参加者:13,844人 参加率:46.6%								
【主な取り組み】 ・市内企業、団体への参加依頼(参加表明136団体／依頼752団体) ・市内全校、全園配布 ・新聞(道北日報)コラム掲載(5/17、5/18、5/25)、新聞広告掲載 ・広報5月号掲載 ・自治連会議でのPR ・開催告知(市HP、デジタルサイネージ、市Facebook、暮らしナビアプリ) ・のぼり旗設置(本庁、教育委員会、朝日支所、和が舎、道の駅) ・庁舎懸垂幕設置 ・卓上のぼり設置(参加表明団体) ・当日の参加報告状況などをFacebookで掲載した ・参加表明団体への電話かけを行い、参加報告の確認を行った。								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった人を集めるプログラムを実施するとともに、市民に本取り組みを広く周知する情報発信に努めた結果、2021年の参加者数を超えることはできたが、目標とする数値の達成には至らなかった。</p> <p>様々な活動が再開してきているが、新型コロナウイルス感染症の感染は続いており、人々が活発に活動する環境にはなっていないことも要因である。</p> <p>このような状況下においても、市民の運動習慣の定着による健康づくりが課題であり、より効果的な取り組みを検討する必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>チャレンジデーの参加によって、市民の運動への意識を高めるきっかけを提供することにはなった。</p> <p>しかし、本市が目指す運動習慣の定着化よりも、参加率などの数値や対戦相手との勝敗が目立って注目され、「きっかけづくり」から「運動習慣の定着化」を図るといふ本来の目的を前面に出した取り組みとすべきであった。</p> <p>イベントへの参加に限らず、日頃からスポーツや運動に参加する機会をつくるなど、年間を通じた継続できる取り組みを進めていくことが必要であることから、令和5年度のチャレンジデーには参加せず、新たな形で市民皆スポーツをめざす取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.23	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担当部署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基本施策	各種イベントの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
スポーツイベントの参加者数		5,630	5,680	5,730	5,780	5,830	5,880	5,930
基準値(2018年度):5,624人/年 目標値(2026年度):5,930人/年		482	899	3,033				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツイベント開催事業						
【事業概要】 国内外のトップアスリートが参加する質の高い各種スポーツイベントの開催や市民の参画をはじめ、農業、商業、観光と連携を図りながら、魅力ある大会づくりを進める。								
【実施状況】 新型コロナウイルス感染症の影響により、2年間中止としていたハーフマラソン大会を、感染対策を講じながら開催した。								
【主な取組み】 ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ士別大会 186人 ・士別ハーフマラソン大会 1,726人 ・イトイ産業杯争奪学童野球交流大会 144人 ・国民体育大会ウエイトリフティング競技北海道ブロック予選会 42人 ・サフォークランド士別カップ少年サッカー大会 0人 ・アジア交流少年サッカー士別大会 0人 ・全日本サマーコンバインド朝日大会 85人 ・全日本サマージャンプ朝日大会 88人 ・全日本ジュニア&レディースサマージャンプ朝日大会 71人 ・「合宿の里士別」ジュニアサマージャンプ交流大会 36人 ・クラレ高梨沙羅カップジュニアサマージャンプ朝日大会 68人 ・朝日ノルディックスキー大会 309人 ・オリンピックデーラン士別大会 278人								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により2年間中止となっていた大会も再開するようになったが、一部大会は引き続き中止となり、目標を達成することができなかった。</p> <p>様々な活動が再開してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響が続いていたことも要因である。</p> <p>また、一般の参加者が多いハーフマラソン大会は、より参加しやすい環境を整えることで集客に結び付けていく必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>参加者にとって魅力あるスポーツイベントにするとともに、運営においても効果的で効率的な取り組みにしていくため、運営方法や地域の団体との連携など、より良い方策を検討する必要がある。</p>								

士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.24	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	オリンピック・ムーブメントの推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
オリンピックデーラン参加者数 基準値(2013～18年度):平均666人 目標値(2026年度):730人/年		670	680	690	700	710	720	730
		125	143	467				
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業				ホストタウン推進事業				
<p>【事業概要】 JOCとのパートナー都市協定を締結したまちとして、「オリンピックデーラン」の開催を通じ、オリンピックムーブメントの普及・啓発を行う。また、オリンピックの価値や精神を学習する場として、中学生を対象とした「オリンピック教室(オリンピック教室)」を開催する。</p> <p>【実施状況】 30回目の節目を迎える「オリンピックデーラン」は、2020年から2年連続中止となったが、3年ぶりに開催した。JOC主催の「オリンピック教室」は実施せず、昨年に引き続き北海道オール・オリンピックズの協力を得て教育委員会主催で「オリンピック教室」を開催し、オリンピックの価値や精神を学習した。</p> <p>【主な取り組み】 ・オリンピックデーラン士別大会 278人 ・スポーツ教室 48人 ・オリンピック教室 2学年対象(周辺校は全校生徒対象) 士別南中学校 53人 士別中学校 58人 上士別中学校 15人 朝日中学校 15人</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>「オリンピックデーラン」及び「スポーツ教室」を3年ぶりに開催した。 また、本市と包括連携を締結している北海道オール・オリンピックズの協力により、中学生を対象とした「オリンピック教室」を開催した。 しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、人々が活発に活動する環境にはなっておらず、行動に慎重なこともあり、目標達成には至らなかった。 オリンピック・ムーブメントを推進するため、より魅力的な内容にしていくことが必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後は、開催地が主体で企画、運営を行うスタイルに転換し、JOCと開催地双方の負担を減らすより良い展開ができないか検討してきた。 新年度は、これまでのJOC主催のオリンピックデーランではなく、実行委員会再編のもと、新たな形でオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進するとともに、スポーツを「する」だけでなく「みる」「支える」を含めたスポーツの面白さや楽しさを知ってもらう機会を創っていく。</p>								